



うえまつ 植松 けんいち 健一
(至誠)



クマ対策について

問 クマ被害を出さないための対策はどうしているか。

部長 目撃情報があった場合、庁内関係部局、地元区、農林事務所、警察署等の関係機関に速やかに情報提供をするとともに、同報無線放送での注意喚起を行っている。目撃場所の近くに観光施設や農業施設などがある場合は、個別に情報提供をしている。

問 クマが出没しにくいような環境を整備する、人里近くまで来ないようにすることが必要と考えるが。

部長 まずはクマを人間の方に寄せないための方策として、収穫していない果実をしっかりと処分する。また、生ごみのしっかりとした管理やヤブを刈るなど地域の住民に対応をお願い

し、さらにクマの出没が大きな問題になってくるようであればまた改めて対策を考えたい。

耕作放棄地について

問 令和5年4月からの農地法改正について。

部長 令和5年の実績として、90件の権利取得の内30アール未満の小規模の農地取得は33件あり、小規模農地を取得しやすくなったことで、農業に対するハードルが下がっているという認識はある。小規模農地の取得は今後も増えるのではないかと認識している。

市長 先日、新規就農で様々な農地を借りて10ヘクタールもネギを栽培しているところを見学させてもらった。そのように新規就農の補助金をもらいながら、はじめてしっかりとやっているという例もあり、市としてはそういう方をしっかりと応援していきたいと思っている。耕作放棄地と担い手は重大な取り合わせであり何としても耕作放棄地をなくす、そして担い手を育てていくということは市の大きな使命だと考えこれからも一生懸命やっていきたい。



あしざわ 芦澤 ひでのり 秀典
(明和)



新教育長の教育に対する姿勢について

問 富士宮市の学校教育の現状について。

教育長 一学期末の学校評価において「みんなで学び合う授業は楽しく、学び合うことで授業の内容が良く分かる」と回答した児童生徒は9割を超えている。また、「学校は経営ビジョンを明確に示し、子どもたちのために一生懸命取り組んでいる」と、9割を超える保護者が回答している。

問 富士宮市の学校教育の今後の取組について。

教育長 富士宮市が抱える教育課題も実に多様化・複雑化している。教育委員会各課の一層の連携はもちろんだが、市長部局との連携・協働は不可欠である。これからの課題への対応に当たっては、これらを推進していくとともに、学

校・家庭・地域との連携により、総がかりで子どもをよりよく育てていく環境、子ども自らが育っていく環境をつくり、富士宮市すべての子どもたち、すべての学校の幸福追求、ウェルビーイングの向上に力を注いでいきたいと考えている。

空き店舗等利活用への補助金について

問 この事業の目的について。

部長 市街化調整区域は、都市の無秩序な拡大を防ぎ、自然環境や農地を保全するために設けられた区域であり、その中での商業活動は制約が多いのが現状である。しかしながら、そうした店舗の減少は、地域の魅力を低下させ、交通の課題と合わせて、地域コミュニティの希薄化など、住民の生活にも影響を及ぼすことから適切な対策が必要であると考えている。そこで、このような地域課題を解決していくため、地域の商業機能を維持するとともに、市街化調整区域内のコミュニティの維持及び活性化を図ることを目的に、令和6年度からスタートさせた。